

今はひっそりと眠る比婆西城コース。30年前のオリエンテeringブームを偲びつつ、気分は探検隊に…

比婆西城コース

広島県 No.1 JOA 公認 No.131
10km 10ポスト

今回はいつもの「オススメ」コースではなく、休止扱いになっているかつての名物コースの現状をご紹介します。鉄道の廃線ウォークなども密かなブームになっているようですし、往時を偲びながらの閉鎖コースウォークも興味深いものがあります。

広島県で最初に設置されたのが「比婆西城」コース。設置が昭和46年ですから、実に丸30年もの歴史を持つ名門コースです。地形の変化とルート整備不良が休止とされた理由と思われる。オリエンティアが歩かなくなって10年は経過しているのでしょうか。さあ、どれだけ当時の姿を残しているのか、興味津々で歩き始めます。

スタート地点は広島県北東部、西城町にある「西城町中央公民館」。JR芸備線「備後西城」駅から歩いて5分ほどのところ。休止とあってスタート地点にOLの案内板は見当たりません。マップは広島県OL協会で購入できますが、原本は品切れになってしまったようで、コピーが送られてきました。現状との違いが追記されており、戸惑うことはありません。

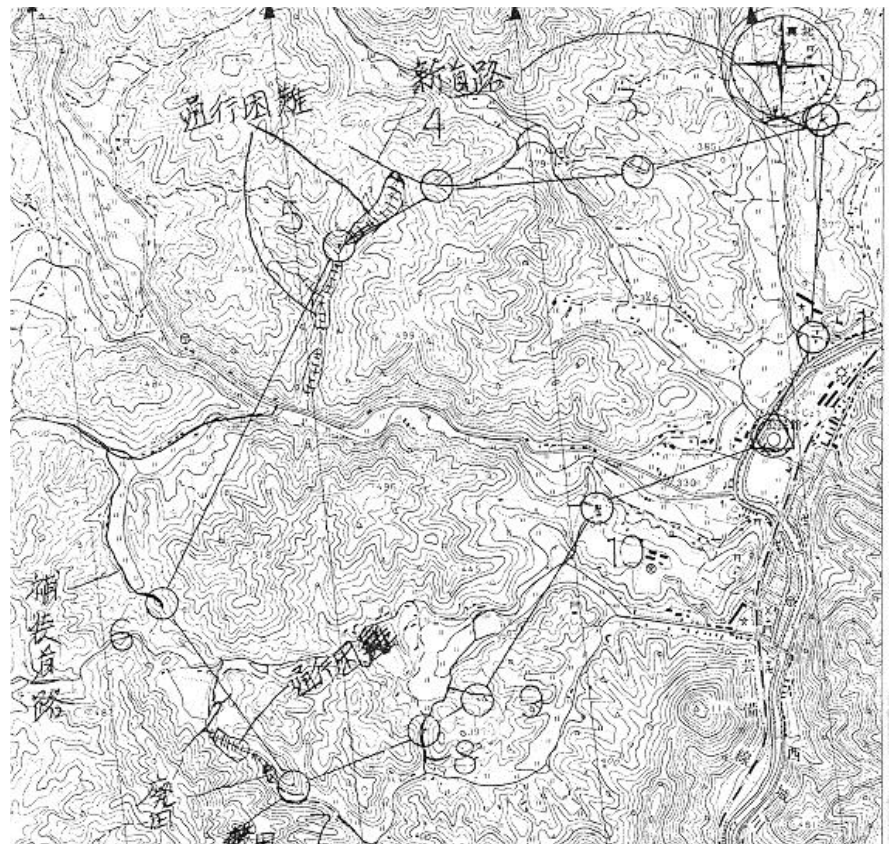
第1ポストは国道183号線を西城川に沿って北東へ向かいます。左手の丘の上に学校が見えてくると、遠目にポストも確認できるでしょう。生活道路の道端に斜めに傾いて立っています。このコースのポストは極初期に作られたもので、アルファベットが斜字体のタイプです。かつては埼玉県元加

治、高麗、越生コース、茨城県の高萩コースに使用されていましたが、いずれも更新されているため、希少価値のあるポストになっています。他には兵庫県加古川厄神コース（休止中）で現存するのみでしょう。30年もの間、風雨に曝されながらもオリエンティアを迎えてくれたことに敬意を表して第2ポストへ向かいます。

学校の裏から台地状の帯を一直線に北に向かいます。晴々とした気分で歩けるルートです。追記された新道との交点を過ぎると、老木の陰に隠れたポストが目につきます。錆がひどく、記号が判別できるのはわずか1面だけ。年々を感じるポストです。

第3ポストは新道を下り、耕作地から山に分け入ります。椎茸床の脇を抜け、疎林を過ぎて若干上ると池に到達。送電線の下にポストはあったはずなのですが、残念ながら確認するには至りませんでした。撤去されるような理由もなさそうところなのですが…。

気を取り直して第4ポストへ。小道から道路に出る直前は民家の敷地内をお邪魔するような気分。広い舗装道路に従って西に向かうとポストへ導いてくれます。一昨年、ざっと調査した際には見当たらなかったポストですが、念入りに探した結果、道路の北側に倒れているのを発見しました。引き起こして木に立て掛けておきましたので、今は道からでも確認できるはずで



第5ポストはマップに「通行困難」と注意書きのあるところ。明確な道もなく、見当をつけて沢に分け入ります。大会に参加したことのあるオリエンティアならこの程度のルートは難なくクリアできるでしょうが、PC主体のオリエンティアは不安を覚えるところでしょう。地形がハッキリしていることが救いで、沢に従うとポストへ導いてくれます。人目に触れることがないポストのため、驚くほど鮮明さを保っています。

第6ポストはロングレグ。山を抜け出すまでは廃道と化した小径を進みます。道路に出たところで出会った地元の方の話では、通るのはイノシシくらいのものとのこと。ここからはやや中弛みの感がある舗装道路が続きます。南に向かい、田んぼが途切れた地点の先がポスト位置なのですが、見当たりません。

第7ポストは地形をよく見極めないと苦労しそうです。明瞭なルートはありません。ポストのあった尾根の先端が削り取られた関係でここも撤去された模様です。

山間の里道を歩き、2度三叉路を過ぎると第8ポストへ到達。壊れて道端に埋もれています。注意して探しましょう。

至近距離の第9ポストは出戻りになる小径の奥にしゃきと立っています。小径の入口さえ見出せば、難なく発見できます。

最終ポストは「妙善寺」の西側の空き地に健在です。鉄塔管理用の小道を選ぶのがゴールへの最短距離。国道に出ると程なく終了となります。

第5ポスト前後のルート整備、マップの改訂、ポスト再設置等々再開には課題の多い現状ですが、いつの日にか生まれ変わって、オリエンティアを再び楽しませて欲しいコースです。

(2002年3月9日 踏破)

アポなしオリエンテーリングの旅 (タイ王国編)

深山泰利 (タイ放浪中)

海外オリエンテーリングアポなし体験、いきなり見つまずきました。タイは結構期待していただけに痛いです。タイのオリエンテーリング協会には日本出発前にメールで打診しておいたのですが、音沙汰なし。「ま、気にすることないわ」と思っていました。先日、英語たんのうな友人がバンコクに来たので、直接乗り込む前に電話を入れてみてもらったのです。

「ハロー。キャンユースピークイングリッシュ？」

「・・・(ガチャン) ツー、ツー」

これが二回続けば、ねえ。協会の場所からして、市街地からちょっと離れたアーミースタジアム(つまりは軍施設内)にあたりします。ちと怖いでしょう？

さて4月19日再度タイのオリエンテーリング協会に、駄目で元々で行ってみました。

観光地ではないので、ツーリストインフォメーションで聞いても、宿で聞いても首をかじげられるだけ。不安ではありましたがとにかく新交通システムでバンコクの中心部から離れた最寄駅まで出かけました。

敷地の外に着いてみると、まさしく軍施設。警戒厳重な門の前には銃を持った兵士が緒立しています。いささかビビりましたが、いきなり撃たれはしないだろうと、意を決して話しかけてみました。

「Excuse me?」

「Sorry, I cannot speak English」

まあ、予想できた事態ではありません。おっちゃんと言者、二人の兵士がいましたが、ともにこやかに感じよく相手になってくれて、ほっとしました。

住所を書いた紙と会話集でどうにか意志疎通を図ってみたところ、どうも、「ここは違うよ」と言っているようなのです。看板はタイ語なので読めませんが、ガイドブックをよく見ると、どうやら違うようです。

おっちゃんいわく、「アーミー関係なら近いだろう。俺はこの場所は知らんがタクシーを捕まえて聞いてみな」との事。その前にもう一度確認しようと、ネットカフェに入って調べてみました。すると、IOF記載の住所とタイ公式ページの住所が違ってきます。それじゃ、行ける訳ないですね。

ここでようやくタクシーに乗り込みました。しかしやはりマニアックな目的地らしく、運ちゃんも途方に暮れてあちこちに聞いてまわりながらの走行です。仲のいいホテルマンのところに寄り道して行った先は、まさしくArmy Sports Stadium。しかし、その守衛さんは「ここにはんな協会はない」とつれない答え。窮した運ちゃんは、いったん会社に戻り、居あわせた社員全員で鳩首会議です。それでもちが開かず、ついには僕のメモにある電話番号に直接掛けて聞いてくれました。すると協会の返事は「アポイントのない人とはお会いできません」

公式に招待した「まっとうな」外国人しかタイではオリエンテーリングができないのでしょうか。

ともかく、これでタイでの望みは完全に潰えました。

だめだと分かった帰り道、タクシーの運ちゃんが133パーツ分乗ったのに、同情してか100パーツぼっきりにまけてくれたのが嬉しかったというかなんというか。

次に行きそうなのはマレーシアですが、ここはメールアドレスないからどうしたものか思案中です。

(おわり)